

部会名	子ども部会	報告回	令和4年度第3回全体会
委員 氏名		氏名	選出母体及び役職等
	1	◎高橋 史	府中市肢体不自由児者父母の会 副会長
	2	○長崎 昌尚	地域生活支援センターみ～な センター長
	3	山口 真佐子	桜美林大学 特任教授
	4	麻生 千恵美	児童デイサービスめろでい 代表
	5	清水 孝子	東京都立府中療育センター 地域療育支援課 地域療育支援主任技術員
	6	渡辺 里江子	府中公共職業安定所 統括職業指導官
	7	佐藤 結希乃	東京都立府中けやきの森学園 教諭
	8	原 綾子	多摩府中保健所 地域保健第一担当 課長代理
※部会長は◎、副部会長は○			
現状	近年、障害児の子育て支援に関するサービスは充実してきている。また共働き世帯の増加に伴い、保護者のニーズも変化しているのが現状である。 適切なサービスを利用しながら親子共々成長できるよう、地域における支援体制や連携の仕方を検討する必要がある。		
検討 テーマ (概要)	障害のある児童およびその家族等が、ライフステージが変化しても切れ目のない支援を受けられるよう、ツールの活用や地域における体制等を協議していく。 (よりよい障害児支援のあり方や関係機関の連携について様々な角度から検討していく)		
取組 経過	【令和4年度の取組】 各種サービスの充実により親の負担軽減は進んだが、同時に子育てのサービス利用が早期に始まることによって、親子の愛着形成・障害の受容がなされぬまま過ぎていく懸念がある。子どもやその保護者を取り巻く環境等を考慮し、「子ども自身の幸せ」を主体に考えるサービス（親子支援）のあり方とそれを客観的に判断する方法や関わる機関等について幅広く検討し、そこにちゅうファイルの活用機会も見出していく。		
検討 結果	<p>第2回全体会以降では、以下のとおりヒアリングを実施し、課題を整理した。</p> <p>1 ヒアリングの概要</p> <p>令和4年11月29日に、種別や程度を問わず障害等のあるお子様をもつ保護者12名を対象として、「ライフステージが変化しても切れ目のない支援を考える座談会」と題してヒアリングを実施した。</p> <p>2 ヒアリングの詳細</p>		

質問事項とその意図は以下のとおりである。ヒアリングで出された意見については、別紙「子ども部会ヒアリング記録」を参照されたい。

(1) 相談したいときに相談相手はいますか？誰に(どこに)相談していますか？

意図：公的な相談先か、インフォーマルな相談先か、どのような機関を頼っているのかを確認する。

(2) 相談先の情報入手方法は何ですか？

意図：昨今インターネットを介した情報提供が主流になっているが、どのような媒体(手段)で情報を得ているのかを確認する。

(3) 放課後や週末、親子でどのように過ごしていますか？

意図：週末親子で過ごせる時間が、親子の愛着形成には重要である。また、障害があってもなくても、地域活動などに参加できることで、障害のある児童の社会参加や障害理解の推進にもつながる。

(4) 行ってよかった場所やイベント、配慮があってよかった経験などありますか？

意図：行政主体で行っているイベントのニーズ把握や、イベントに限らずどのような場所や機会を求めているのかを把握する。

(5) 「切れ目のない支援」といいますが、あなたにとって「切れ目のない支援」とは何ですか？

意図：どのような時に「切れ目」を感じるのか、障害種別や年齢によっても異なる可能性があるため、具体的に把握する。それにより「切れ目」の解消に向けた方策を検討するため。

(6) ちゅうファイルを知っていますか？

(7) 困っていることはありますか？

※小児科から成人医療への移行について不安なことはありますか？

3 ヒアリング実施後の課題の整理

(1) 情報とのつながり

・必要な情報にたどり着けない現状→ワンストップの相談窓口、ポータルサイトが必要か。相談窓口が複数あるメリットも踏まえ、どこが担うのか、担えるのかという課題がある。

・ちゅうファイルの周知→行政側・関係機関で活用機会を検討する(母子保健、医療、福祉、教育の場での活用)

・将来的には、スマホで情報収集や入力、データを共有できるようになれば理想

(2) 地域とのつながり

・地域のイベント等への参加については、主催者側に障害理解・配慮のあるところだと安心できる→どんなイベントにおいて障害のある子どもも参加の可能性のあるものとして考えてもらえるようになるといい

(3) 関係機関・支援機関とのつながり

子どもの成長、親子の愛着形成を踏まえた支援が必要。サービス利用だけが支援とは限らない。必要な支援について客観的に助言・判断できるコーディネーターが必要（計画相談の充実）。

(4) その他

小児科から成人医療への移行については、相談体制を整えること、移行先の医療機関への理解啓発と連携、現在受け入れ可能な医療機関の情報収集が早急に必要である。

会議開催状況と内容

	日程	内容
第1回	5月17日	○各委員が現在感じている障害児支援や子育ての現状と課題について話し合った。
第2回	7月22日	○障害のある児童およびその家族等が、ライフステージが変化しても切れ目のない支援を受けられるようツールの活用や地域における体制等を考えてみた。
第3回	9月5日	○当事者への聞き取り調査について
第4回	10月21日	○ヒアリングの目的、対象、進め方、質問項目や役割分担について
第5回	11月29日	○ヒアリング実施
第6回	12月23日	○ヒアリング内容のまとめ、答申について